

# 街歩きヒストリア



## ⑮ 広島拘置所の壁画

広島城から縮景園に向かう途中にある広島拘置所。

その高い壁面には、全長約 200 メートルに渡る巨大な壁画が描かれています。制作者は、画家の故・入野忠芳さん。「殺風景な壁に潤いを」と、広島市に依頼されて 1989 年に制作、劣化が目立ってきた 20 年後の 2009 年から約 5 年をかけて修復されました。

江戸時代の広島城下の様子や、水飛沫を上げながら川面を躍る鯉や竜など、力強く躍動感に溢れる絵柄が、道行く人々の目を楽しませてくれています。（文・片山典子さん）



生き生きとした絵は、今にも壁から飛び出してくるようです。（写真・河野宏志さん）

中央公民館エリア（白島、基町、幟町）の街の魅力を歴史とともに紹介するコラム「街歩きヒストリア」。公募で集まった制作スタッフが編集します。